

太宰府中学校2学年だより

No.12

R1.6.17

文責：石橋 眞子

中間考査を終えて～みなさんに考えて欲しいこと～

先週の16日、前期中間考査が行われました。本年度より、高校入試の時制にあわせて試験時間が5分長くなりました。その分、授業で学んだことをもとに深く考える問題が増えたり、問題文の量も多くなりました。

高校入試の傾向も、これまでのような「一問一答」ではなく、「あなたはどのように考えますか」という内容が多くなっています。そのためには、長い文章を読みこなす読解力も高める必要があります。

今週は、中間考査の答案を返しますが、その時に、次のような場面に出会うことがあります。下の会話を聞いて、あなたはどのように感じますか。

場面1：生徒「先生、私の結果は何位でしたか。」
先生「順位は出せないんだよ。成績表でだいたいわかるけど、何で？」
生徒「〇番内に入ったら〇〇を買ってって親にお願いしたんです。」
先生「……………」

場面2：生徒「先生、〇〇君は何点ですか。」
先生「人の得点は言えないよ、どうしてそんなこと聞くの」
生徒「あいつにはあと5点で勝つんだ。△△君には勝った。◎◎君には負けたんだ。だから〇〇君の点数が知りたいんです」
先生「……………」



テストに向けて一生懸命頑張ることはとても立派です。また、頑張った分だけ高い評価を得たら、なおのこと嬉しいことでしょう。

でも、それは「自分自身のため」であって、「もののため」ではないと思います。もちろん、何らかの具体的な目標があるからこそ頑張れた部分もあるでしょうが、勉強の目的をいつも「何かを買ってもらおう手段」にするのはどうかな…と考えます。

さらに気になるのは、点数を他人との「勝ち負けや優劣の材料」にしていることです。

確かに努力の結果が点数に反映されることは否定しませんが、あくまで「本人の努力の結果」であり、それがその人のすべて＝人格をはかるめやすではありません。ましてや、自分より点数が低い人を「見下す」言動は、人として「卑怯な」許せないことです。

成績はあくまで「自分自身のこと」。人と比べて優越感にひたる材料にするのではなく、自分がこれから成長するための「物差しの一つ」として捉えてとらえてほしいと思います。

7月行事

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4 地区別生徒集会	5	6 筑紫区中体連
7 筑紫区中体連	8	9	10	11	12	13 筑紫区中体連
14 筑紫区中体連	15 海の日 	16 1ページ	17 ページ	18 ページ	19 前期の半終了集会	20 筑紫地区大会
21 筑紫地区大会	22	23	24	25	26	27
	教育相談（学級によって日程は異なります）					
			天満宮夏祭り	天満宮夏祭り		
28	29	30	31	☆夏休みは7月20日～8月25日までです。前期後半は8月26日からです。 ☆夏休み明けに課題テストがあります。試験範囲は、夏の生活で取り組んだ内容です。詳しくは裏面に提示しています。		
	教育相談（学級によって日程は異なります）					

（マイケルチャンに）『自分を信じる』というところを、本当に何回も言われていました。特にトップの選手と対戦するときに、USオープンするときも、ジョコビッチと対戦する前日から、『Believe yourself』（自分を信じる）、絶対に勝てるというのを多分1日5回ぐらい言われていました。

錦織圭